

稲作情報 No.2

〔水稻育苗管理、麦防除〕

水田農業レベルアップ委員会技術普及部会(農業試験場、福井米戦略課、JA中央会、JA経済連、主要農作物振興協会)
[http://www.pref.fukui.lg.jp/doc/noushi/inasaku.html](http://www.pref.fukui.lg.jp/doc/noushi/inasaku/2021inasaku.html)

このところ高温が続きました。気象庁の予報では、気温は一旦平年並となりますが、向こう1ヵ月では、高い確率が70%です。

〔水稻育苗〕

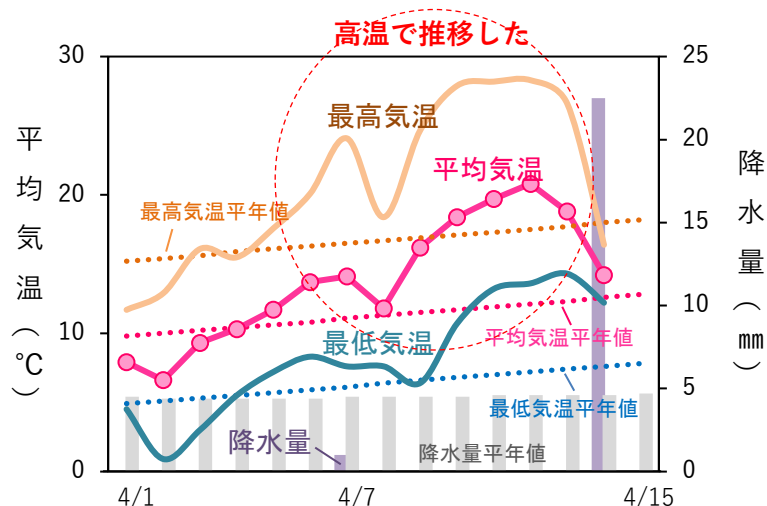
- ・ 寒暖の差が大きくなります。
- ・ 高温時は育苗ハウスの温度管理や水管理を厳密にして、徒長やヤケ苗を防ぎましょう。保温性の高いシートは、ヤケ苗が発生しやすいので注意しましょう。苗の生育が早まり、老化しやすくなるので、計画的に田植えをしましょう。高密度播種は、特に注意が必要です。
- ・ 浸種や催芽、育苗ハウスの温度が30℃を超えると細菌病が多発するので注意しましょう。
- ・ 高温年は害虫の発生が多くなりますので、注意しましょう。

〔麦防除〕

- ・ 出穂期が予測より早まっています。生育を確認して適期に防除しましょう。



○4月の気温と降水量(福井市)



○1ヵ月の気象予報(気象庁 4月14日 14:30発表)

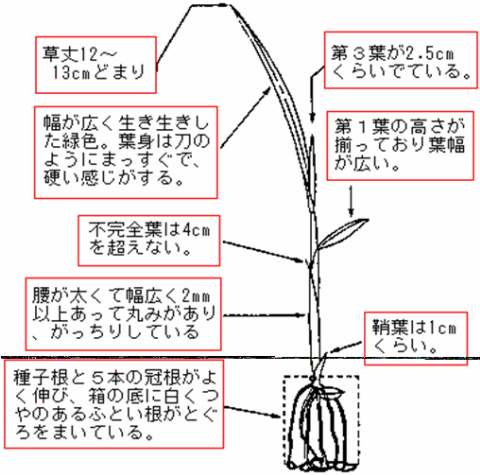
気温、降水量、日照時間の各階級の確率 (%)		向こう1ヵ月 04/16~05/15			
気温	北陸地方	向こう1ヵ月 04/16~05/15	10	20	70
		1週目 04/16~04/22	20	50	30
		2週目 04/23~04/29	10	20	70
		3~4週目 04/30~05/13	20	30	50
降水量	北陸地方	向こう1ヵ月 04/16~05/15	30	30	40
日照時間	北陸地方	向こう1ヵ月 04/16~05/15	40	30	30

■ 低い(少ない) ■ 平年並 ■ 高い(多い)

「高い」が70%

* 細菌病の対策は[こちら](#)を参考にしてください。

水稻

作業	作業の注意点																
浸種～催芽	<p>【種子消毒】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 農作物病害虫防除指針を参考に薬剤を選定する。 <p>【浸種】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 薬剤の効果を高めるため、<u>浸種開始後3日間は水を換えない。</u> ・ 浸種の水温は10～15℃とし、<u>10℃未満にしない。</u> ・ 浸種の終盤に糲を観察し、吸水ムラがないか確認する。 <p>【催芽】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 催芽温度は30℃とし、鳩胸状態に揃える。 ・ 芽や根を伸ばし過ぎると、播種時に種子が引っ掛かり均等に播種できない。 <table border="1" data-bbox="1529 204 1939 329"> <thead> <tr> <th>水温(℃)</th> <th>浸種日数の目安</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>10</td> <td>10日</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>7～8日</td> </tr> </tbody> </table>	水温(℃)	浸種日数の目安	10	10日	15	7～8日										
水温(℃)	浸種日数の目安																
10	10日																
15	7～8日																
播種～出芽	<p>【施肥量】 床土の施肥窒素量は5月中旬以降に移植するコシヒカリで1.0g/箱、その他品種で1.5g/箱とする。</p> <p>【播種】 播種量はコシヒカリで一箱当たり130g、その他品種で150gとする。</p> <p>【出芽】 出芽温度は30℃、出芽期間は2～3日で、芽を伸ばしすぎない。</p>																
緑化	<p>【緑化】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 出芽苗を育苗ハウスに設置後、急な強光による白化を防ぐため被覆する。 ・ 床土表面の乾燥程度を確認し、乾いたら少量を灌水する。 ・ 苗が黄色～黄緑色になったら被覆資材を外す。 																
硬化、馴化	<p>【温度管理】</p> <table border="1" data-bbox="329 886 1493 1072"> <thead> <tr> <th>時期</th> <th>昼間</th> <th>夜間</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>緑化</td> <td>20～25℃</td> <td>15～20℃</td> <td>10℃以下、32℃以上にしない</td> </tr> <tr> <td>硬化</td> <td>15～20℃</td> <td>10～15℃</td> <td>5℃以下、32℃以上にしない</td> </tr> <tr> <td>馴化</td> <td colspan="3">移植3日前頃から強風や低温時以外は外気にならず、5℃以下、32℃以上にしない</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> ・ 育苗ハウス内の生育差が大きい場合は、育苗箱の位置を替える。 ・ 育苗箱の底面と床面に隙間があると生育差が生じるため、均平にしておく。 <p>【換気】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ハウス内の気温が32℃以上にならないよう換気する。 ・ 最低気温が10℃以下や強風時以外は、夜間もハウスの側面の部分を開放する。 	時期	昼間	夜間	備考	緑化	20～25℃	15～20℃	10℃以下、32℃以上にしない	硬化	15～20℃	10～15℃	5℃以下、32℃以上にしない	馴化	移植3日前頃から強風や低温時以外は外気にならず、5℃以下、32℃以上にしない		
時期	昼間	夜間	備考														
緑化	20～25℃	15～20℃	10℃以下、32℃以上にしない														
硬化	15～20℃	10～15℃	5℃以下、32℃以上にしない														
馴化	移植3日前頃から強風や低温時以外は外気にならず、5℃以下、32℃以上にしない																

作業	作業の注意点		
硬化、馴化	【灌水】 ・朝、葉先に露があるときは灌水しない。 露がないときや、育苗箱の縁の土が白く乾いているときは灌水する。 ・灌水は晴れた日の午前中に行い1回でたっぷりやる。午後3時以降はなるべく灌水しない。 ・過灌水は発根が悪くなる。 ・夜間の気温が高く床土の水分が高くと、徒長や病気の原因となる。 ・晴天が続く日は、朝昼2回灌水する。灌水量の目安は1箱あたり500ml程度である。		
	苗の葉齢	晴天の日	曇雨天の日
	1.0～1.3葉	朝1回(高温時は床土が乾いたら少量灌水)	行わない
	1.3葉～	朝、昼 2回	朝1回(または行わない)
	【馴化】 ・移植3日前頃からハウスの横面を大きく開けて、苗を外気にならす。ただし、霜が降りる日は行わない。		
	【移植前の薬剤育苗箱処理】 ・育苗後のハウスで、作物を栽培するときは、箱剤の残留農薬に注意する。		

麦

作業	作業の注意点		
赤かび病防除	【防除時期、薬剤】		
		時期	薬剤、使用量、使用時期
	1回目	開花始期(出穂期*の5日後頃)	トップジンM粉剤DL 4kg/10a 収穫14日前まで ワークアップ粉剤DL 3kg/10a 収穫 7日前まで * 同一成分の薬剤は連用しない。 上記以外の薬剤は、 病害虫防除だより や 農作物病害虫防除指針 を参照する。
2回目	1回目の7～10日後		
	* 出穂期：全茎の40～50%が出穂した日 ・開花期の平均気温が15℃以上で雨が連続と多発する。赤かび病の被害粒が10,000粒中に5粒以上混入すると出荷できない。 ・出穂状況を確認し、適期に防除する。		
排水溝の手直し 雑草対策	・溝の土をさらい、雨水が速やかに排出できるようにする。 ・用水への通水後は、隣接田から浸水がないか確認する。 ・カラスノエンドウを抜き取る。 大きくなると麦に絡むため、小さいうちに取り除く。		